

研究報告 1

令和4年度 研究プロジェクト①

**「子育てに困難を抱える家族への支援の実践と展開
—ペアレントトレーニング, PCIT, AF-CBT の実践を通して—**

犬塚峰子・井澗知美・西牧陽子・保科保子・黒田大貴・飯島帆南・旭末可子・石橋明

概要：子育て支援の実践と有効性の検討を目的に、平成24年度より本研究を継続している。今年度は、①よりよい支援の提供、②専門家への研修会実施による地域貢献、③研究成果の地域・大学教育への還元、を目的に実践研究を継続した。

ファシリテーター養成研修は8月5日、6日に開催し、26名の専門家が参加した。2月10日には、第7回ファシリテーター養成アドバンス研修を実施し、5名が参加した。継続を望む声が多数あり、来年度も引き続き養成研修ならびにアドバンス研修を開催する予定である。

1. 子育てに困難を抱える家族への援助実践

家族への援助実践として、ペアレントトレーニンググループ（親グループ）を対面で実施、4名の養育者が参加した。AF-CBTは、新たに1組の家族にプログラムを行った。

2) AF-CBT（家族のための代替案；認知行動療法）

昨年度開催したAF-CBTワークショップ2021の継続研修を以下の通り実施した。

- ・ 5月28日 WS2021アドバンス研修（参加者：15名）
- ・ 6～11月 WS2021コンサルテーション後半（参加者：42名）

1) ペアレントトレーニング（養育者グループ、全10回）

第10期となる今年度はファシリテーターを飯島が、コ・ファシリテーターを黒田が務めグループを実施した（2022年5月～11月、全10回）。事前面接を経て4名の養育者がプログラムに参加、これまでの参加者は計63名となった。

本研究プロジェクトにおいて2012年に国内への導入を実現したAF-CBTは、児童相談所を中心に実践が広まってきている。日本人トレーナーは犬塚・保科の2名で、国内で研修を実施しているのは当所のみである。研修に関する問い合わせは年々増加しており、AF-CBT研修へのニーズの高まりがうかがえる。これまでワークショップは隔年開催であったが、今後年1回程度ワークショップを開催できるよう調整、検討を重ねている。

2) AF-CBT（家族のための代替案；認知行動療法／個別プログラム）

今年度、新たに1組の家族にプログラムを実施した。

2. 専門家向け研修の実施

1) ペアレントトレーニング

平成25年度から、庄司敦子先生（まめの木クリニック心理士）と井澗（本学教授）、西牧（本学専任講師）を講師として、専門家を対象としたファシリテーター養成研修及びファシリテーター養成アドバンス研修を開催している。

3. 地域・大学教育への還元

日々の臨床実践における連携に加え、上述の専門家向け研修会の場において、子育て・家族支援領域で実践を重ねる専門職との交流を深め、連携を強化している。学外では、地域関係機関（荒川区）からの要請を受け、教員の西牧がべ

表1：各治療プログラムの概要

	①PCIT (親子相互交流療法)	②ペアレントトレーニング	③AF-CBT (家族のための代替案：認知行動療法)
目的	親子関係をよりよいものとするコツや工夫を学び、家族の抱える問題の解決を目指す		
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子 (子どもの年齢：2～7歳) ・DV被害，虐待や養育不全が起きている親子，問題行動がみられる子どもとその親。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親 (子どもの年齢：4～10歳) ・発達障害のある子どもの親。子育てに困難を感じる親。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子 (子どもの年齢：5～17歳) ・身体的虐待など不適切な養育がみられる親子，問題行動や攻撃的行動のある子どもとその親。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で実施。 ・効果的なほめ方，指示の出し方の工夫を学ぶ。 ・面接室で子どもと遊ぶ中で，学んだスキルを実践する。その際，親にはトランシーバーを利用して直接アドバイスや，スキルを上手に使用していることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで実施。 ・効果的なほめ方，指示の出し方の工夫を学ぶ。 ・ロールプレイを多用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で実施。 ・暴力や暴言に代わるよりよい方法（代替案）を見つけ，実践する。 ・親子が家でより安全に過ごすための様々なスキルを学ぶ。 ・子どものトラウマからの回復に取り組む。
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・親子が遊ぶ場面に直接働きかけるユニークな方法 (ライブコーチ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで実施することで，親同士が学びあい，支え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国で身体的虐待への有効性が実証された数少ないプログラムの1つ

アレントトレーニングアドバイザーを務めた
(2022年10～12月，全7回)。

大学教育への還元では，西牧を中心に，臨床心理学科2年次必修である保育園実習の事前研修として，本プロジェクトの知見を活用した授業を実施した。

4. 今後の展開

令和5年度も，ペアレントトレーニングを含む各プログラムの臨床実践および専門家向け研修を実施する。AF-CBT研修については，ワークショップとその後の継続研修をあわせて「包括的トレーニング（1年間の学習プログラム）」形式で開催し，今後研修開催頻度を年1回程度に増やしていく予定である。

文献

- 保科保子・犬塚峰子・西牧陽子（2014）：子育てに困難を抱える家族支援のために——虐待的關係にある親子のためのプログラム（AF-CBT）の紹介 カウンセリング研究所紀要，37
- 井潤知美（2013）：発達障害の治療的介入としての行動論的ペアレントトレーニング——その歴史的概観と今後の課題 カウンセリング研究所紀要，36
- 柳田多美（2011）：DV被害が終わってからの母子への援助：PCIT（親子相互交流療法）の紹介 カウンセリング研究所紀要，34